

都内でセミナー

避難した会社に 首都圏の人材を

経営者ら働きがいPR

原発事故で避難した事業者と首都圏の人材を結びつけるためのセミナーが14日夜、東京都内であった。富岡町から避難した経営者らが人手不足に苦しむ現状や、求める人材について発表。参加者からは福島で働

くことのやりがいや、生活の不便さに対する不安についての質問が相次いだ。

「人手が足りず、仕事の依頼が来てもお断りしている。全国各地に行って採用面接をしています」。富岡町から広野町に避難する警備会社の鹿島栄子社長(63)は参加者に訴えた。

避難指示区域内の工事現場や立ち入り制限されている道路の警備など仕事はひっきりなしに舞い込んでくる。しかし、原発事故前に約120人いた従業員は70人足らずに減った。首都圏から人材を呼び込めるならと考え、発表したという。セミナーは転職サイトな

どを運営する「ビズリーチ」(本社・東京都)が経済産業省からの委託事業として開いた。故郷に戻る「Uターン」や故郷と違う地方に行く「Iターン」に興味を持つ人と、首都圏に避難している人など約60人が参加した。

セミナーの目的は、避難指示が出た市町村の事業者の支援だ。福島労働局によると、10月の県内の有効求人倍率は1・42倍(季節調整値)。地区別では、相双地区が最も高い2・18倍(原数値)で、人手不足が深刻化している。

「福島で働くやりがいはあるか」。富岡町から郡山市に避難する建設環境コンサルタント会社の上野秀文社長(45)は参加者から問われ、「復興や環境再生には長い年月がかかる。そこから生まれる技術が世界最先端になっていく可能性がある」と答えた。

一方、参加者からは避難指示解除後の生活について「店が少なく物価高が心配」「公共交通機関は使えないのか」などと不安を訴える声も上がった。

遠藤さんは「セミナーの即効性はないかもしれない。回数を重ねることで、福島で働くやりがいを持っていくことが伝わっていくと思う」と話した。(伊沢健司)